年頭所感

分散型クリーンエネルギー社会と脱炭素社会の実現を目指す

（一社）日本エネルギー設備保安推進協会　代表理事　近藤　豊嗣

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウィルス拡大の中で大きな変革が求められており、さらに地球温暖化の影響で自然災害が増大しております。当協会では、引き続き非常用発電設備の1／3負荷試験の推進と負荷試験技術者の育成、更にグリーンエネルギーの貯蔵の研究に力を入れております。

政府においても、「2050年までに温室効果ガス排出ゼロ。2030年、脱ガソリン車」を目標に掲げました。

私は、四半世紀前から、クリーンエネルギーでの自給自足可能な、分散型エネルギーの必要性を訴え続けて参りました。事業主体である負荷試験の辰巳菱機にて、負荷運転エネルギーの有効活用を日夜研究し、グリーン電力「でんまる君」が完成しました。

放熱する負荷試験装置から蓄電池（LiB）に置き換え、負荷電力で蓄電池への充電を実施します。移動もEV車で行いますので、100%脱炭素試験を実施できます。これが「EV Power Banks『でんまる君』」です。

普通充電器も装備しており、電気自動車への充電も可能です。その他、事業所等で非常電源（100／200V）としても活用できます。さらに現在では、プラスしてもう一台設け、蓄電池を分割して入れ替え可能に。負荷試験で貯まった蓄電池をマイクロカーや電動バイクに入れ替え、同時に燃料電池への水素吸蔵合金ボンベでの入れ替え式も開発しております。そして、この装置を大型・大容量化し、今後、普及が拡大する電気自動車の電力供給ステーション化を目指して参ります。「EV Power Station『でんまる君』」です。

この「でんまる君」は、災害時の分散型エネルギー供給にも役立ちます。

当協会の柱である、〝防災から減災へ〟の備えを「積極的な発電設備の保守・点検の実施」と「積極的なBCP対策電源の導入」を推進していく中で、分散型クリーンエネルギー社会と脱炭素社会の実現を目指して参ります。

21世紀から22世紀へ。当協会は、2021年を新様式のスタンダード確立元年と捉えております。

当協会の会員五十数社の皆様と、日常の非常用電源設備の健康維持を地道に取り組みながら、脱炭素社会の実現へ、負荷試験を通じて日本中に大きく輪を広げる元年として参る所存です。

延期となりました東京オリンピック・パラリンピック開催の中心地、地元・江東区から大きなうねりを起こして参ることを決意し、新年のご挨拶とさせていただきます。